イ　地震動（波面伝播非減衰震度）の場合

⑴　次式により、$Ir_{obs600j}$の最大値を、予想の対象とする地点の硬質地盤上における計測震度相当値に換算した値Ir_{600}とする。

$$Ir_{600}=\max_{j}\{Ir_{obs600j}\}$$

j　：予想の対象とする地点から水平距離半径r（km）以内の実時間震度観測点又は特定観測点の通し番号

$Ir_{obs600j}$　：j番目の実時間震度観測点又は特定観測点における前号エ又はオに掲げる硬質地盤上における計測震度相当値に換算した値

r　：０～30（km）

⑵　次式により、硬質地盤上における最大速度振幅PGV_{600}（cm／s）を求める。

$$PGV_{600}=10^{\frac{Ir_{600}-2.68}{1.72}}$$

⑶　次式により、予想の対象とする地点におけるＳ波の最大速度振幅PGV（cm／s）を求める。

$$PGV=ARV_i\times PGV_{600}\times 0.9$$

ARV_i：予想の対象とする地点における地盤増幅度

⑷　次式により、予想の対象とする震度Iを求める。

$$I=2.68+1.72\log PGV$$

三　地震動（震源由来震度）の到達時刻の予想の手順

ア　以下の方法により、震央距離及び震源の深さごとの走時を示す表（以下本号において「走時表」という。）を作成する。

⑴～⑸　（略）

イ　予想の対象とする地点の位置及び第一号アに掲げる震源位置から震央距離l_0及び震源の深さdを求め、これについて、以下の方法により、Ｓ波の走時t（s）を求める。

⑴～⑶　（略）

ウ・エ　（略）

（※）気象庁の定める震度計設置環境基準は、気象庁ホームページに掲載する。

別表第３

層番号	深さ（km）	Ｐ波速度（km／s）	Ｓ波速度（km／s）
1	0.0	4.800	2.844
2	0.5	4.950	2.931
3	1.0	5.090	3.012
4	1.5	5.220	3.088
5	2.0	5.340	3.157
6	2.5	5.450	3.221
7	3.0	5.550	3.278

三　地震動の到達時刻の予想の手順

ア　以下の方法より、震央距離及び震源の深さごとの走時を示す表（以下本号において「走時表」という。）を作成する。

⑴～⑸　（略）

イ　予想の対象とする地点の位置及び予報資料のうち震源位置から震央距離l_0及び震源の深さdを求め、これについて、以下の方法により、Ｓ波の走時t（s）を求める。

⑴～⑶　（略）

ウ・エ　（略）

（新設）

別表第３

層番号	深さ（km）	Ｓ波速度（km／s）
1	0.0	2.844
2	0.5	2.931
3	1.0	3.012
4	1.5	3.088
5	2.0	3.157
6	2.5	3.221
7	3.0	3.278